

令和6年度 学校評価報告

草加市立氷川小学校

(令和7年2月19日作成)

1 学校教育目標 「学びあい 助けあって 自分を高める」	
氷川小学校の目指す児童像 ○ひ・ひかる汗 (体) 高めあう子 ○か・輝く瞳 (徳) 助けあう子 ○わ・わかる喜び (知) 学びあう子	
2 重点目標・努力目標 ○児童の「自己肯定感・自己有用感」の向上 ○教職員の「働き方改革」の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○行事や集会、校外学習のコロナ以前の取組に戻し、保護者への公開、地域との交流を増やした。 ○高学年の教科担任制は定着し、児童の知識・技能が向上した。 課題 ●日課表や月予定の見直しを行い、授業時数を確保しながらも教育活動を充実させる。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○校長のリーダーシップのもと、教職員が一丸となって教育活動の充実に取り組んだ。 ○様々な業務の効率化が図られていた。 ●校務分掌の負担が偏っている。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○学級会を中心に学級経営をしたことで、どのクラスも一人一人を大切に学級づくりを意識できた。 ○校内研修を通して特別活動(学級会)の指導について理解が深まった。 ●今年度の研究成果を次年度に継続する。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○避難訓練においては、車いす対応、不審者対応、休み時間対応等を行い、非常時の避難方法について共通理解を深めた。 ○養護教諭が不在時の、児童のけが等に対する対応を確認できた。 ●安全点検の工夫
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○児童の安全に関わる施設、学習に関わる施設は、早急に対応し、施設による事故はなかった。 ○施設設備の老朽化による廊下タイルの剥がれは、一部修繕できた。 ●校庭の遊具やサッカーゴールが劣化により使用できない。(市役所担当には連絡済み)
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○毎日、学校HPに教育活動をUPした。 ○今年度から「氷川小PTA」から、「氷川小サポーターズ」となり、活動の精選ができた。 ●「氷川小サポーターズ」とボランティア活動で保護者や地域の方々と連携し活動を活性化していく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○中学校区の研究を経て、「コミュニケーション能力の育成」「居心地がよい学級づくり」「個に応じた適切な指導」を高める手立てなどへの理解が深まった。 ●引き続き、中学校区では、教育課程や生徒指導で連携を進める。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 ・目標、方針の周知 ・授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的に教育活動を行い、授業時数を確保した。 ○「子どもたち一人ひとりを大切にするあたたかな学校づくりの実現」に向けた「共通理解・共通行動」の徹底。 ●家庭・地域社会との更なる連携。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 ・評価、評定の工夫 ・外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○高学年での教科担任制が定着した。 ○校内研修、外部研修による授業研究会を積極的に行い、教員の授業実践力向上により、児童の「自己肯定感・自己有用感」の向上に繋がった。 ●外部人材の活用した授業実践の向上。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の作成 ・各教科との関連 ・道徳実践力の育成 ・家庭、地域社会との連携 ・いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学校公開で全学級道徳の授業を行った。 ○道徳ノートを持ち帰り、道徳教育について保護者との共通理解を図った。 ●家庭に具体的な取組を分かりやすく発信していく。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫と改善 ・評価、評定の工夫 ・各教科、道徳教育との関連 ・中学校との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初に外国語教育の研修を行い、全教員が氷川小の外国語授業の共通理解を図り、レベルの高い授業に向けて指導方法を学んだ。 ●教員の外国語・外国語活動の更なる授業力向上。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○4月の教室開きを工夫し、「教師と児童」「児童同士」のよりより関係づくりができた。 ○学級会のやり方が全学年で統一された。 ●学校行事と児童会活動の充実と精選。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫 ・地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年に合わせて、学習の発表などにICTを効果的に活用できた。 ○地域学習での地域の人材や場所的・物的資源を活用。 ●地域学習の指導計画や指導内容を確立する。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導に対し、管理職を中心に組織的な対応をした。 ○「共育」という観点から、生徒指導の状況を文書で保護者に発出した。 ●教育相談や児童理解を充実させ、いじめや問題行動を
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携教員を中心に、中学校とは連携が図れた。 ●将来の夢や気になる職業など気軽に調べられる場や環境の提供。 ●地域との連携を強化し、啓発的な経験を充実させる。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職や特別支援コーディネーターと連携を密にし、校内の支援体制ができた。 ●個別対応が必要な児童が多く、対応できる教職員の人数が足りていない。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「読書の日」「読書表彰」「読み聞かせ」に取り組み、児童や保護者の啓蒙・啓発を行った。 ●委員会活動や児童会活動で、引き続き読書に関わる行事を進めて行く。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者とSNSに係る生徒指導上の課題を共通理解し、家庭での声掛けをお願いした。 ○氷川小「よい子のきまり」を確認しSNSの正しい使い方について課題があると感じた。 ●発達段階に応じた情報モラル教育を進める。

⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実 	B	<p>○年度当初の特別支援学級に係る研修、児童理解に係る研修、夏季休業中の人権感覚育成研修を行い、全教職員で共通理解を図ることができた。</p> <p>●人権感覚プログラムを更に推進していく。</p>
-------	--	---	--

(様式1・小学校用③)

草加市立氷川小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習・チャレンジタイムの活用 ・読書活動の推進 ・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・家庭学習の充実 	A	<p>○全学調、県学調、市学調ですべての教科で平均を上回った。</p> <p>○読書の推進、算数の基礎問題の繰り返し、漢字ミニテスト等によって、基礎学力向上に繋がった。</p> <p>●子どもたち一人ひとりの個性を生かした活動や学習。</p>
	コミュニケーション力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・指導方法の工夫と改善 	A	<p>○「学級会」の研修を深め、特別活動でもコミュニケーション能力を育成することができた。</p> <p>○お互いの意見を尊重し合える児童の割合が増えた。</p> <p>●教育活動全体でコミュニケーション力を向上させる。</p>
	生徒指導・教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・校内支援体制の整備 	A	<p>○生徒指導案件については、早期発見、迅速な対応、経過観察を全教職員で共通理解し対応した。</p> <p>○「氷川小よいきのきまり」を教職員と保護者で共通理解した。</p> <p>●いじめや問題行動を未然に対応するため、児童理解研修を充実させる。</p>

<p>5 総合評価 (学校関係者評価を含む)</p> <p>○11月の研究発表があったので、学級会が活発になることで児童の話す力、自分の意見を言葉にして考える力がついた。</p> <p>○学級会を中心に学級経営をしたことによって、どの学級も一人ひとりを大切にしたい学級づくりを意識して取り組んだ。</p> <p>○校内研修や市・県の研修を積極的に行い、教職員の授業力向上に繋がった。</p> <p>○学校ホームページに様子が分かる写真を載せていただき、ありがとうございます。(保護者)</p> <p>○子供に寄り添った対応をしていただきありがとうございます。(保護者)</p> <p>○落ち着いて学校生活を送っている児童が増えた。(学校関係者)</p> <p>○様々な業務の効率化が図られた。</p> <p>●老朽化により使用できない遊具の改善。</p> <p>●運動会など学校行事をコロナ前と同じ内容に戻してほしい。(保護者)</p>

<p>6 次年度の改善策</p> <p>【学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日課表や月の行事予定の見直し、授業時数を確保と教育活動を充実させる。 ・タブレットの活用を含め、個に応じた学習の推進。 ・保護者や地域社会の外部人材を活用し、地域社会と関わる行事を検討していく。 <p>【研修について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の「ウェルビーイング」と「学力」の向上を目指す。 ・児童の学力向上に向けて「教員の授業実践力向上」の研究を進める。 <p>【負担軽減について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すぐーる」を活用し、学校からの配布物や連絡のペーパーレス化に取り組む。 ・「定時退勤デー」「ふれあいデー」を推進していく。 ・勤務時間外在校時間が月45時間以上の教職員を0とする。 <p>【不祥事防止について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不祥事防止研修・倫理確立委員会を計画的に行い、教育公務員としての意識を高める。 ・「教職員事故・不祥事防止氷川小プラン」の作成と共有。
--

